

図書館だより

令和6年6月 滑川町立図書館発行 文責 館長

6月

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■ : 休館日

6月・7月のおはなし会

6月12日(水) 0歳から2歳 11:00~

6月15日(土) 3歳以上 10:30~

七夕おはなし会

7月4日(水) 0歳から2歳 11:00~

7月6日(土) 3歳以上 11:00~

7月のおはなし会は七夕おはなし会になります。彦星や織り姫にちなんだおはなしが聞けることと思います。七夕おはなし会は準備の都合上、カウンターかお電話にて予約をお願い致します。

(6月20日より予約の受付をします。)

お誘いあわせの上、大勢の皆様のご来館をお待ちしております。

図書館 電話56-3433

○星に願いを七夕飾りをお楽しみに。

図書館では、今月半ばに玄関わきに七夕の笹飾りを設置する予定です。来館の皆さんに星への願いを書いて、飾っていただきたいと思えます。毎年、多くの方の願いごとでいっぱいになった笹飾りはとてもきれいで涼しそうです。七夕に関する絵本も館内にあります。あわせて、読んでみるのもおすすめです。

○夏休み図書館員を募集します。

今年も、夏休み中に図書館の仕事を体験できる夏休み図書館員さんを募集します。対象は小学校の4年生から6年生です。図書館をもっと身近に感じるよい機会になると思います。下記の内容を確認していただき、ご応募ください。

期日 7月24日、25日、8月1日、2日

10:00~15:00(弁当持参)

定員 各日とも4名

応募方法 電子申請

その他 詳細は後日、各小学校にお配りするチラシをご覧ください。

○親子読書教室を開催します。

図書館では、親子読書教室ということで、読書の大切さを知り、読書感想文にまとめる方法について講座を開きます。今回は、小学生を対象にし、親子で参加をお願いします。

期日 7月27日(土) 低学年10:30~

高学年14:00~

定員 午前、午後とも15組

応募方法 電子申請

その他 詳細は後日、各小学校にお配りするチラシをご覧ください。

なお、二つのイベントについては先着順ではなく、多数応募があれば、抽選とします。

いくつになっても、脳力は上がる、そうです。

今月の図書館のおすすめ本コーナーは「健康」がテーマです。このテーマから最近、自分事として感じていることがあります。それは、年齢のせい、物忘れや勘違い、今までおかさなかつたミスなどが増えてきたのを悲しいけれど実感してきたことです。二階まで階段を上がり、あれ、何しに二階に来たのだっけ、とか、よくテレビに出る有名な俳優の名前が出てこない。かつては名前を覚えることは割と自信があり、一度お話をさせていただいた人はもちろん、テレビタレントの名前なども、一度聞けば覚えているという自負がありました。テレビに出るタレントや俳優などの名前はうちの家内の何倍も知っていると思っていました。それが、顔は出てくるが、あれあれということが増えてきたのです。また、同じ間違いを繰り返すことも多くなってきました。同じ人の名前を同じように間違えるなどということです。まあ、年だからこうなるのだなあ、とあきらめ気分でしたところ、「脳は八十歳になっても伸びる力を持っている」というお医者さんのエッセーに出会いました。人間の脳は左右でつながっているということらしいですが、利き手しか使わないと脳の使える範囲が限られてしまうそうです。そこで、例えば右利きの人で左手を使うことでその範囲が広がるということです。左利きの人で右手を使う場合も同じことが言えます。つまり、両方の手を使えるようにトレーニングをすれば、脳の活用範囲を広げることができるようになるということです。利き手の違いが脳の育ちに影響を与えることを知れば、それを踏まえてまだまだ脳の可能性を広げることができます。まだまだ自分の能力はこんなものじゃない、突然発想力が湧いて素晴らしいものを開発できる可能性だってあるのです。とはいっても、いきなり右利きの人で左利きになれといっても無理があります。利き手でないほうに箸をもって食事をしてもおいしくは食べられません。まずは、フォークをもってフルーツを食べる、電気のスイッチを押すなど簡単なことから始めてみるというそうです。簡単なことでも人間の脳は二週間集中的に同じことをやると、どんどん変化するということです。ただし、子ども場合は注意が必要で、特に、言語能力が発達する4歳から十歳くらいに利き手の矯正をすると、吃音や言葉が出にくくなるという症状が出ることもあるそうです。利き手を変えるような訓練はかなり苦痛で負担になるということです。母国語がしっかりと身につく十歳前後から利き手と反対の手を使う訓練をするのがいいそうです。人間の脳はいくつになっても成長し、たとえ、八十歳になっても伸びる力を持つということです。誰でも、何時からでも鍛えられるのが脳の特長ともいえるそうです。

私はこの話をとても面白いなあと思いました。年齢とともに脳も弱ってくると思っていました。確かに少しずつ委縮したりするのは避けられませんが鍛える価値があるということに少し希望を感じました。急に能力がアップするとは思いませんが、左手でスイッチぐらいはできそうです。

文責：図書館長 杉原